

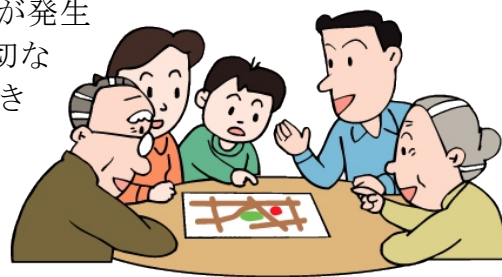
平和が丘防災タイムズ 第34号

平和が丘学区防災委員会

ようやく梅の花があちこちで満開となりましたね。皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平和が丘防災タイムズ34号では、名古屋市のホームページ「防災ピックアップ情報」から家庭での防災対策と、猪子石中学校の取り組みについて紹介させていただきます。

○家庭の防災対策（家族防災会議）

名古屋市は、過去に伊勢湾台風や東海豪雨等の災害を経験し、南海トラフ巨大地震の発生も危惧されています。ひとたび南海トラフ巨大地震が発生すれば、甚大な被害が出ると想定されていますが、適切な対策が講じられれば、被害を大幅（約5分の1）に軽減できることを知っていますか？



名古屋市では、もしもの時に備えて、家族で事前に話し合っておくものについて、大きく次のようにまとめました。話し合う上で重要なのは、災害に対しての想像です。いろいろな場面を想像して家族内の対策を立ててみてください。

（注：名古屋市の記述に対し、本紙では分かりやすくするため一部追記・改編しています。）

✓check1 地震に関する基礎知識

- 観測情報・注意情報・警戒宣言の意味をあらかじめ理解しておきましょう
- 緊急地震速報(テレビ・ラジオ・携帯電話など)の動作基準を理解しておきましょう。
- 警戒宣言によるライフラインなどの規制状況

水道・電気・ガスは供給されますが、道路の通行やデパート・金融機関などは一部が制限されます。詳しくは、名古屋市ホームページで確認ください。

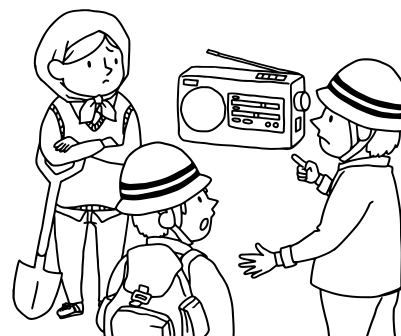
<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/20-2-5-3-11-0-0-0-0-0-0.html>

✓check2 家の危険箇所のチェック

- 家の耐震状況を確認し、弱い部分があれば早めに補強や、危険箇所として全員が覚えておきましょう。（家の耐震状況、家具等の配置や転倒・落下防止、ガラスの飛散防止、ブロック塀の倒壊防止など）

✓check3 地震に備える場所の確認

- 警戒宣言発表時にどこで地震に備えるのか
原則、自宅内外の安全な場所ですが、「土砂災害危険箇所」「土砂災害(特別)警戒区域」にお住まいの方や居住する建物の耐震性が乏しく、かつ、付近に安全な場所がない方は、避難場所や一時避難場所になります。
- 家族が離ればなれになった場合の落ち合う場所の確認
これは、警戒宣言発表時に地震に備える場所です。
- 避難場所の確認
地震が起こった場合に備えて避難場所の確認や安全に避難するルートを確認
- 避難の方法を確認



✓check4 家族間の連絡方法

- 家族が離ればなれになった場合の連絡方法（災害伝言ダイヤル「171」の利用方法）

✓check5 備蓄と非常持ち出し

- 家族構成を考えて必要な品を準備（備蓄は7日分程度、非常持出には3日分程度）
- 保存状態や賞味（品質保持期限）期限の確認

✓check6 日ごろ・注意情報発表時・警戒宣言発表時における対応

家族一人ひとりの役割分担(持出品準備、ガスの元栓、施錠など)

- 日ごろの予防対策上の対応
- 緊急地震速報が流れた時の行動
- 地震注意情報・警戒宣言発表時の対応

基本的な項目は以上ようになりますが、家族構成により乳幼児や高齢者がいる場合の対応や、子どもがいる場合は学校などへ迎へに行く方法などを決めておく必要があります。必要以上に地震を恐れることなく、いざというときに備えて、対策を講じておくことで不安を少なくし、地震に備えることが大切です。



○「自分で考え行動し、自分の身を守ることができる生徒を育てるために」(猪子石中学校)

平素よりお世話になっております猪子石中学校から、生徒に対する防災教育について寄稿いただきましたので、掲載させていただきます。

「自分で考え行動し、自分の身を守ることができる生徒を育てるために」

名古屋市立猪子石中学校

1月9日(金)に、地震発生を想定した防災訓練を行いました。まず地震の放送を流し、各自机の下にもぐる訓練をしました。ところが、当日は、雨で運動場が使えなくなり、運動場への避難訓練を行うことができませんでした。その後、下校の準備をして、教室を出ましたが、そこでもう一度地震発生放送を流しました。この2回目の地震発生放送については、生徒には知らせずに行いました。災害はいつやってくるか分からず、いざというときは自分で判断して行動しなくてはならないからです。生徒は、廊下や階段で、安全な場所で、低い姿勢になり、頭を覆い、揺れが収まるまでじっとしていました。訓練前に、一度大きな地震が来ると、何度も大きな余震が起こることと、余震が起こったときには、ものが「落ちてこない」「倒れてこない」「動いてこない」場所で、低い姿勢になり、頭を守りじっとしていることについて話をしました。そのことを思い出し、各自考えて行動することができました。

猪子石中学校では、年間4回の防災訓練を行っています。4月には、地震・火災を想定した避難訓練と分団下校の二つの訓練を行いました。9月には、緊急メールを配信し、保護者の方に来校していただき、引き渡し訓練を行いました。1月の訓練では、先に述べたような、余震を想定した訓練を行いました。いろいろなパターンで、訓練を行っていますが、実際は、いつどのような災害が起こるか分かりません。自分で考え行動し、自分の身を守ることができる生徒を育てるために、これからも指導を続けていきます。

□防災お役立ち情報(震度)

地震が発生するとニュースで「震度〇〇」と発表されますね。震度とは地震の揺れの大きさのことを表しますが、いったい何段階に分かれているのでしょうか？

最初(1884年)は「微震」、「弱震」、「強震」、「烈震」の4段階だったようですが、1898年に「微震(感ナシ)」、微震と弱震の間に「弱震(震度弱キ方)」、弱震と強震の間に「強震(震度弱キ方)」が追加され7段階に、その後も様々な変遷を経て現在は10段階の数字で表しています。

では、震度7は最大震度から何番目の震度なのでしょう？

現在は、震度0、震度1、震度2、震度3、震度4、震度5弱、震度5強、震度6弱、震度6強、震度7の10段階ですので、実は震度7が最大震度になります。

<編集後記> 今から7年前の2011年3月11日(金) 14時46分に東北地方太平洋沖地震を発端とする東日本大震災が発生し、その爪痕は今でも大きく残っています。災害はいつ何時起きるか予測ができません。いざと言うときに迅速かつ安全に行動できるよう、日ごろからシミュレーションしておくことが大切です(編集 前島)



平和が丘だより

検索